

神奈川県立がんセンター 消化器内科（肝胆膵） 任期付医師研修評価表（ 年次）				
任期付医師	期（氏名）			2022.3 ver.1
指導医				任期付常勤医は 太枠内を記入
研修期間	年 月 日～	年 月 日		
がん専門医研修における消化器内科医としての下記の研修目標について自己評価をするとともに、指導医による評価も受ける。				
A:修得した B:ほぼ修得した C:目標に達しない				
	自己評価	実施または術者	見学または助手	指導医評価
1. 以下の肝胆膵領域の臓器の病態生理を理解している。				
1) 肝臓	A・B・C	/	/	A・B・C
2) 胆道	A・B・C			A・B・C
3) 膵	A・B・C			A・B・C
4) その他	A・B・C			A・B・C
2. 以下の肝胆膵疾患などを理解し、適切な治療方針が決められる。				
1) 肝細胞がん	A・B・C・症例なし	/	/	A・B・C
2) 肝内胆管がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
3) 肝門部がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
4) 転移性肝がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
5) 肝炎・肝硬変	A・B・C・症例なし			A・B・C
6) 自己免疫性肝疾患	A・B・C・症例なし			A・B・C
7) 肝外胆管がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
8) 胆嚢がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
9) 十二指腸乳頭部がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
10) 原発性硬化性胆管炎を含む良性胆管疾患	A・B・C・症例なし			A・B・C
11) 膵臓がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
12) 膵内分泌腫瘍	A・B・C・症例なし			A・B・C
13) 膵IPMN・MCN・嚢胞	A・B・C・症例なし			A・B・C
14) 自己免疫性膵炎を含む良性膵疾患	A・B・C・症例なし			A・B・C
15) 食道静脈瘤	A・B・C・症例なし			A・B・C
3. 以下の肝胆膵内科医として必要な患者管理・処置ができる。				
1) 腹部血管造影検査	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
2) 経皮的肝生検	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
3) 腹水穿刺	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4) 造影超音波検査	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5) 化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
6) ERCP検査	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
7) 経皮的膵生検	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
8) がん性疼痛管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
9) 麻薬管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
10) Informed Consent	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
11) 緩和治療	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
12) せん妄管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
13) 治験・臨床試験患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
14) その他	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4. 以下の肝胆膵悪性腫瘍の治療手技を修得している。				
1) 肝がん超音波下穿刺治療（RFA/PEIT）	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
2) 肝動脈塞栓術	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
3) 進行肝がん化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4) 胆道がん化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5) 膵がん化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
6) 内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
7) 内視鏡的胆管ステント留置術	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
8) 経皮経肝胆道ドレナージ術（PTBD）	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
9) 肝膿瘍穿刺術	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
10) 食道静脈瘤破裂への対処	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
11) その他	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5. 学会活動を行っている。				
		演者または著者	共同演者・共著者	
1) 学会発表	A・B・C	件	件	A・B・C
2) 論文発表	A・B・C	件	件	A・B・C
3) 研究会発表・質疑参加	A・B・C	件	件	A・B・C
任期付常勤医 自由記載欄：（欄不足の場合は裏面へ）				
評価： 年 月 日 判定： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可				
指導医記載欄：				

提出方法: 任期付医師は研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1ヵ月以内に総務企画課に提出すること。